

発達基礎研修：感覚統合と支援

# 氷山の下の 「感覚」を読み解く

児童発達支援・放課後等デイサービス  
支援員向け 感覚統合実践講座



# 「行動」ではなく「感覚」にアプローチする



子供は頭（言葉）ではなく、本能で刺激を求めている。

大人が無理に促すのではなく、主体性のある遊びの中で「気づかせる」「やりたいことをやり切らせる」ことが最大の支援となる。

# 発達の手台となる『3つの基礎感覚』



## 触覚（皮膚全体）

- 防衛：場所見知り・人見知り（警戒心）
- 識別・探索：見ずにこポケットの中の鍵を触り分けて取り出す
- ボディイメージ（輪郭）：自分の体の輪郭や大きさ、長さを捉える



## 固有受容覚（筋肉・関節）

- 力加減：声の大きさ、ドアの開け閉め、肩を叩く強さの調整
- ボディイメージ・運動コントロール：見なくても手足の位置や関節の曲げ伸ばしが分かる（例：見えない背中側でお尻を拭く、手先の器用さ）
- 情緒の安定：イライラや過度な恐怖心の緩和



## 前庭覚（耳の奥・三半規管）

- 左右脳の連結：時間の切り替え、コミュニケーションのキャッチボール
- 姿勢調整：肘をつかずに体を支えて座る
- バランス・中心軸：ぎこちない歩き方の解消、体の中心軸の形成
- 覚醒・眼球運動サポート：ぼーっとした状態からの脱却、動くものを目で追う

# 支援員のための「見立て」マトリックス

## 目に見えるサイン

## 紐づく感覚の働き

## 基礎感覚

よく人や物にぶつかってしまう

体の輪郭や大きさの把握不足（ボディイメージ）

触覚

ドアをボタンと強く閉める、  
友達を強く叩く

筋肉・関節の力加減のコントロール不足

固有受容覚

トイレでお尻がうまく拭けない、  
手先が極端に不器用

見えない手足の位置や、関節の曲げ伸ばしの  
把握不足

固有受容覚

遊びが譲れない、  
コミュニケーションが一方的になる

左脳と右脳の連結不足、時間の切り替えの困難

前庭覚

常にぼーっとしている、  
姿勢を保てずすぐ肘や膝をつく

覚醒レベルの低下、重力に対する姿勢調整の困難

前庭覚

# 感覚入力マッピング：欲求と遊具の最適解

【圧が入る・ぶつかる・  
摩擦】を求める

触覚 / 固有受容覚



ハンモック：布に包まれてじっとする



ボールプール：中に深く潜る



バランスボール / ロディ：上から体重をかける、座る



体育マット：下に潜り込む、上でゴロゴロと転がる



サイバーホイール：中に入れてぐるぐる回る



ハンモック：大きく揺れる、回る



ボルダリング：上下へ登る・降りる



トランポリン / ロディ：上下へ飛ぶ、飛び乗り・飛び降りる

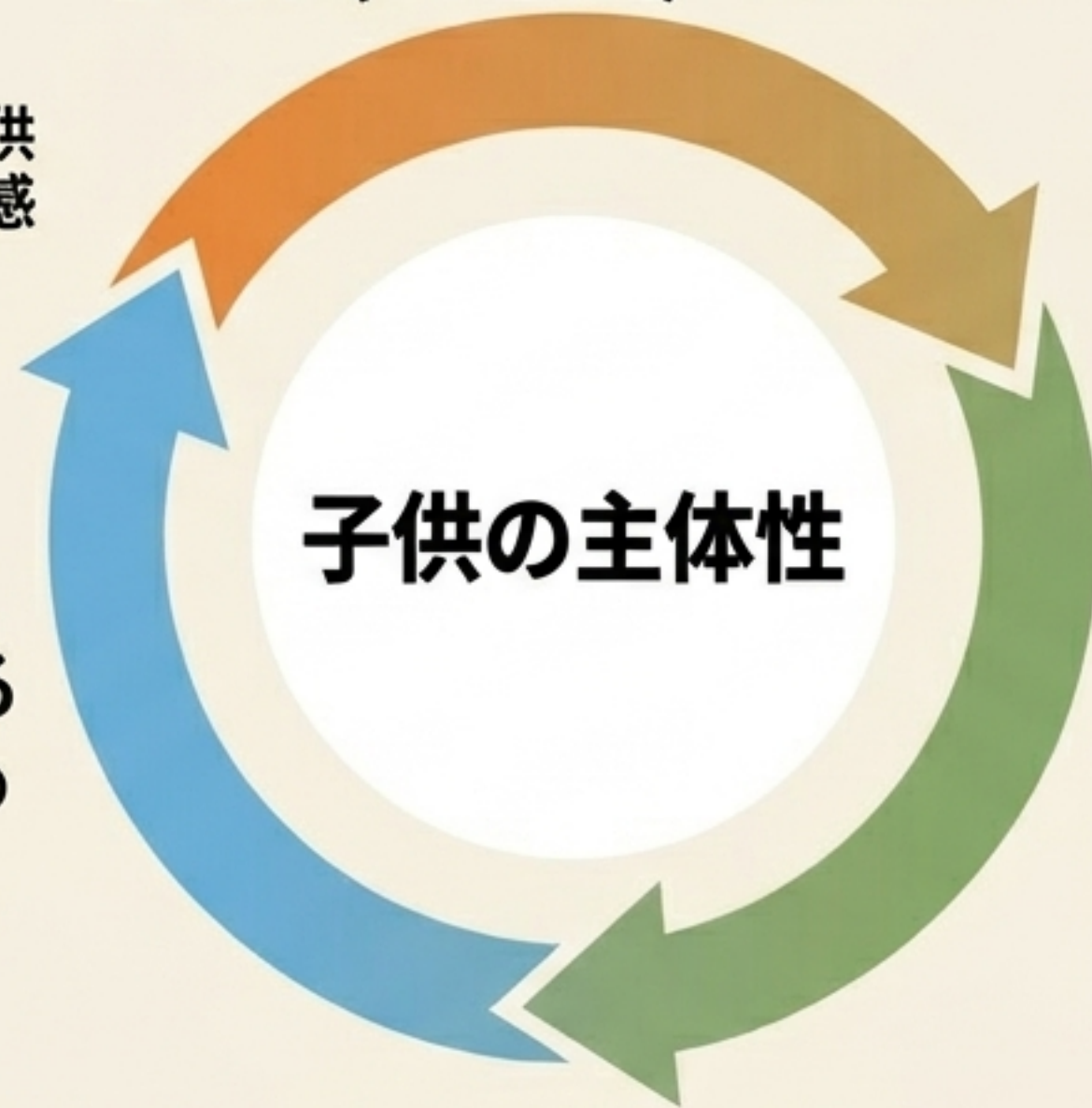
【回る・揺れる・飛ぶ・  
登る・中心軸】を求める

前庭覚

# 支援員の役割：指示ではなく「環境」をデザインする

## 1. 観察 (Observe) - 見立てる

言葉の指示では子供には響かない。子供の行動から「今、本能的にどの刺激（感覚）を求めているか」を見立てる。



## 2. 環境設定 (Prepare) - 仕掛ける

求める刺激に合致する最適な遊具（感覚入力の手機）を、さりげなく空間に配置する。

## 3. 没頭 (Engage) - やり切らせる

大人が無理に促すのではなく、子供の「やりたい！」という本能に従わせ、遊びの中で自ら「気づかせる」。

私たちの仕事は、言葉で行動をコントロールすることではありません。  
最適な環境を用意し、子供本人の力で感覚を満たし切るのを信じて見守ることです。